

海洋プラスチックごみ対策PT報告書のポイント

海洋プラスチックごみ問題の特殊性・所在等

海であるが故に、問題の特殊性があること

東アジアをはじめ途上国からの大量流出が続いており、海流等により海洋全体に拡散し、また思わぬ箇所に集積して、海洋環境に影響を及ぼしていること（地球規模課題）

直接目にするのが困難で、人の手が届かない海底や沖合域・深海、更にマイクロプラスチックを含め、将来に亘り海洋に残存し、海洋環境に影響を及ぼし続けること（次世代にも続く課題）

ライフスタイルや陸域からの流出に起因している問題であること

日常的に生活の中で使用され、購入時の選択や回収処理への協力など、ライフスタイルとも密接に関連している問題であること

陸域から海洋に流出するものが多く、意図せぬ回避し難い流出も存在しており、森・里・川・海つながりなど、海洋への理解を深めて総合的に取組を進めていく必要

海洋プラスチックごみ対策PTからの提言

□ 海洋流出にストップをかけるための国際連携・協力、生分解性プラスチック等の新素材の開発普及に、喫緊の課題として率先して取り組むこと

国際連携の主導 国際協力の推進・強化

国際的に協働して取り組むための枠組の構築を主導

発生の主な要因となっている途上国等に対する廃棄物の処理や3R等の能力向上に向けた支援・協力の推進・強化

イノベーションへの挑戦

生分解性プラスチック等の新素材の研究開発やその普及を推進し、イノベーションを通じた産業育成を加速

環境教育・消費者教育やワンウェイのプラスチック類の削減等を通じ、環境配慮型社会システムへのシフトを促進

□ 施策推進の基盤となる科学的知見の充実と問題の見える化・共有、多様な主体と連携した海洋ごみ問題への理解増進や回収活動を、重要施策として継続的に取り組むこと

科学的知見の充実・国際共有

調査研究の推進

- ・ マイクロプラスチックを含む海洋プラスチックごみの分布実態や影響把握、将来予測の実施
- ・ 海洋プラスチックごみの物質循環(大型プラごみからマイクロプラスチックに至る生成・変質の過程や輸送過程)の解明
- ・ モニタリング手法の開発と標準化
- ・ 3R推進による海洋プラごみ削減効果の評価手法開発

国際的に協調した調査研究の推進と問題の見える化を通じた課題共有に貢献し、諸課題へ順応的に対処

多様な主体との連携

(森・里・川・海つながりを意識した沿岸域の総合的管理)

NGO・NPO等民間の知見・経験の活用、地域住民・ボランティア・漁業者等が参画・取組やすい環境づくり等への支援を通じ、海洋ごみ問題への国民の理解増進と回収活動の普及・強化

我が国の経験・取組について国内外に情報発信・普及

我が国のこれまでの経験や科学技術を活かし発展させ、世界をリードし主体的・先導的な役割を果たし、海洋プラスチックごみの海洋流出と増大に歯止めをかけ、海洋環境を保全し、持続可能な世界を目指す